

# 肝・胆・膵内科プログラム

## 【研修目標、到達目標】

患者を全人的に捉えると共に消化器疾患、特に肝胆膵疾患の病因・病態を的確に把握し、その診断と治療法を十分に理解した上で、必要に応じて適切な処置を行う事のできる肝胆膵疾患を専門とする消化器内科専門医を育成することを目標とします。

## 【後期レジデント(卒後3～5年目)カリキュラム】

1. 病棟診療は、研修指導医や上級医と共にグループ制をとり、5～10名程度の患者を担当して病歴の聴取、身体所見の取り方、日々の回診による病態把握、検査結果の評価そして治療方針の決定などの習得に努めます。
2. 外来診療は、研修3年目の間は教授外来について疾患の理解、鑑別診断、治療（内服処方含む）を習得します。4年目以降では自らの外来枠を担当して外来診療を実践します。
3. 肝胆膵領域の診断や治療に必要な腹部超音波検査と上部内視鏡検査等は、3年目で修得が望まれる検査として、指導医や上級医の指導のもとで検者となり技術の習得に努めます。
4. 造影超音波検査や造影CT、MRI（SPIO、EOB）等、種々の画像検査は肝胆膵領域に於いて診断及び治療に重要であり読影技術の習得に努めます。
5. 当科で担当する主な疾患は下記であり、消化器専門医や肝臓専門医を目指して後期レジデント期間中、それぞれ研修、到達目標を設けています。

- ・ **肝炎**：従来のIL28Bなどの高度先進医療を用いたインターフェロン治療に加え、経口薬を用いた最新のウイルス肝炎治療を理解し、その効果や副作用も考慮した適切な治療法の選択について習得します。
- ・ **脂肪性肝炎、肝硬変**：関節カロリー計や体組成分析器を用いて肝臓代謝や栄養学的病態を評価し、腹水や肝性脳症に対する薬物治療だけでなく栄養療法も行います。
- ・ **肝細胞癌**：超音波センター、肝臓外科、放射線科と連携して、アルゴリズムに基づいた最も適正な治療法を選択し、当科ではラジオ波焼灼療法と分子標的薬治療を中心に経験します。
- ・ **食道静脈瘤**：内視鏡的静脈瘤硬化療法（EIS）や内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）を経験し、適応や術前後の管理を習得します。
- ・ **胆、膵系疾患**：画像検査による病態把握とともに、内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）を中心として、ERBD、ENBDやステント挿入術、内視鏡的乳頭切開術（EST）や超音波内視鏡（EUS）を行い、それぞれの適応と理解を深めます。
- ・ **消化管疾患**：上部内視鏡、下部内視鏡検査を検者として行い、内視鏡的治療のポリペクトミー、粘膜切除術（EMR）や粘膜下層剥離術（ESD）を経験します。

6. 当科は兵庫県下唯一の肝疾患連携拠点病院の指定を受けており、病病連携、病診連携などを通じて地域医療と密接に関連し、これらの活動に参加することで地域における肝疾患治療の取り組みへの理解を深めます。
7. 兵庫医科大学内において肝胆膵内科は国内臨床試験（治験）の分担比率が高く、治験を通じて肝胆膵疾患の海外で開発された新薬をいち早く経験し、先進医療への理解を深めます。
8. 診断や治療についての理解や知識をさらに深めて確かな物にするため、指導医や上級医の指導の下に、研修3年目では症例呈示を中心に、4年目以降では臨床データの発表も学会等で行います。

さらに大学院進学者は、それらをまとめて学位論文となるように指導を行います。

9. 後期レジデント終了時、原則として日本内科認定医資格を修得するように努め、さらに日本消化器病学会専門医資格、日本肝臓学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本超音波医学会超音波専門医の修得を目指します。

### 【レジデント A（卒後 3 年目）の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、以下のいずれかのコースで他部署研修を希望により行うことができます。

- ・総合診療センター、初期研修で未経験の内科各科、放射線科、麻酔科・疼痛制御科、超音波センター、内視鏡センター、病院病理部のいずれかで 3 ヶ月間研修するコース
- ・総合診療センターで年間を通して月 2 回の外来研修を行うコース

### 【後期研修での行事(カンファレンス、症例検討会)】

1. 毎週月曜日の午後、前、後期レジデントにより入院中の全症例を提示し、診断・治療法等について医局員全員で検討します。その後、教授による病棟総回診を行います。特に重症や診断困難な症例に関しては、随時、症例カンファレンスを開催し、治療法等を指導医と共に検討します。
2. 毎週月曜日の教授総回診後、医局会に続いて勉強会、抄読会を行います。後期レジデントは経験した症例や関連する論文を発表します。各肝胆膵関連学会や研究会で発表する演者は、この勉強会の場で発表予定を行います。
3. 隔週で総合内科医局会が開催されるので前、後期レジデントは参加し、さらに後期レジデントは各科輪番制で症例呈示を行います。
4. 毎週木曜日の夕より、肝胆膵内科、肝胆膵外科、放射線科と合同カンファレンスを行い、提示症例に対して 3 科で検討を行います。

### 【その他研修要件】

大学院進学者及び研究生：肝胆膵内科の研究テーマに沿って研究を行い、研究の一貫として毎週月曜の勉強会に参加します。定期的に自らのテーマ、研究の進捗状況を報告し、医局員全員で検討、今後の方針などの指導を行います。さらに各種肝胆膵疾患関連の学会や研究会にも参加、発表します。

【関連病院】（下線病院は卒後 3 年目以降の臨床研修として派遣実績のある病院です。）

北大阪警察病院、総合加納病院、宝塚市立病院、北大阪病院、大隈病院、田中病院、若草第一病院、三好病院

### 【新専門医制度下における連携施設（予定）】

北大阪警察病院、総合加納病院、宝塚市立病院

### 【指導医】

主任教授：西口 修平（指導責任者）	教授：飯島 尋子（兼任超音波センター）	
准教授：榎本 平之	講師：岩田 恵典	講師：西川 浩樹
助教：池田 直人	助教：会澤 信弘	助教：坂井 良行
助教：高嶋 智之	助教：石井 昭生	助教：楊 和典
助教：高田 亮		

**【研修統括者】**

肝胆膵内科 医局長：榎本 平之

**【問い合わせ先】**

肝胆膵内科 医局長：榎本 平之

TEL：0798-45-6111(内線 6472)

E-mail: kantan@hyo-med.ac.jp (医局) または enomoto@hyo-med.ac.jp (榎本)